

令和2年度 第7回
我孫子市総合計画審議会

令和2年9月12日(土)

我孫子市企画課

○事務局 おはようございます。

定刻を過ぎましたのでこれから始めさせていただきたいと思います。

残暑の中、8月29日に引き続き第7回総合計画審議会にご参加いただき誠にありがとうございます。

開会に先立ち、まず事務局より本日の資料について確認させていただきたいと思います。

まず資料ですが本日の会議次第含め、4セットものとなっております。

我孫子市第四次総合計画基本構想の策定について答申とあります。

左側の2か所ホッチキス止めの資料となっております。

こちらにつきましては、1枚目に答申、2枚目以降に基本構想案というふうになっておりますが、一番後ろから2枚目と一番後ろのページですね。こちらにつきましては基本構想とは違ひまして今回、我孫子市で7月28日にゼロカーボンシティ宣言を表明いたしました。我孫子市では、平和都市宣言と男女共同参画都市宣言、そして、ゼロカーボンシティ宣言と3つの都市宣言をしたこととなります。

平和に関する基本施策の中において、平和都市宣言を踏まえといった文面を入れていたのですが、都市宣言は、当然踏まえていくものとして捉え、個別の施策の文面に入れるのではなく、別の形で示していきたいと考えております。

また、地方創生オンラインセミナーについて、千葉銀行様からご案内をいただきましたので、皆様に配布をさせていただきました。以上となります。

続きまして傍聴者の報告ですが、本日の会議は傍聴する方はいらっしゃいませんでしたことを報告させていただきます。それではこれより議事に入りたいと思います。議事進行につきましては藤井会長よろしくお願ひいたします。

○藤井会長 それでは皆さん改めましておはようございます。

この総合計画審議会、昨年6月にスタートしてから1年3か月ほどということになります。

コロナの時期を経てということで皆様方には書面会議を含めて、いろいろお手数をおかけした形ですが、今日答申を迎える状況になってまいりました。

今日もこちらにお越しいただいて、具体的に皆様方からご議論いただいた内容も含めて、その中で各委員の皆様方がお感じになったこと、市長への思い、また市民としてのお声といったようなことを意見交換できる場とさせていただいております。

そういった中で基本構想というと、どうしても全体像という形の、ある意味、方針を示すという中で皆様方にはその下の基本計画に関わるような案件もこれまでいろいろご議論いただいております。

今日、答申を迎える形にはなりますが、次に待っています基本計画をどう具体化するかといったところも皆様方のお力をいただかないと進められないところでございます。

ひと区切りではございますが、まだ、始まったばかりでございますので、そういった面ではこの土曜日の午前中この時間を使わせていただくというのは、毎回私も言わせていただいておりますが我孫子市はすごいと思います。

平日ではないこの時間を、皆さんがこのためにというふうに思いをもって取り組まれるといったことは、やはり、次のプロセスに必ずつながってくると思いますので、そういったところでまた、いろんな意見を参考にして次のステップに進みたいと思います。

今日はその区切りを一つ迎えると思いますので、またぜひ皆さんからご意見をいただければ、更に前に進めるかと思いますので引き続きどうぞよろしくお願ひいたします。

それでは次第に沿って、基本構想に係る答申に移りたいと思います。

○事務局 まず答申を藤井会長からお読みいただき、その後、星野市長へ答申をお渡しただけですようお願ひいたします。

○藤井会長 それでは皆様方のお手元にホッチキス留めしてございます答申案をご覧いただ

ければと思います。日付け並びに会長名が記載されていないと思います。

我孫子市の方針としてこちらは会長が手書きで入れるということでございますので、こちらは入れた形で読ませていただきます。

令和2年9月12日 我孫子市長 星野順一郎様

我孫子市総合計画審議会 会長 藤井敬宏 我孫子市第4次総合計画基本構想の策定について（答申） 令和元年6月22日付企画第141号 我孫子市総合計画について諮問により諮問された第4次総合計画基本構想の策定について、まちづくりの目指すべき姿や方向性等について慎重に審議した結果、別紙の我孫子市第4次総合計画基本構想案として答申します。

なお、基本構想に掲げる将来像「未来につなぐ 心やすらぐ水辺のまち 我・孫・子」に向けた計画の推進にあたり、下記の事項に留意してください。

付帯意見として、5点ほど記載しております。

1点目、地震や局地的な集中豪雨、新たな感染症など、市民生活への脅威は拡大かつ複雑化しています。市民・地域・行政がそれぞれ防災意識を高めるとともに、相互の連携を図りながら誰もが安全に安心して暮らせるまちづくりに努めてください。

2点目、今後、少子高齢化が進行し、労働力の軸となる生産年齢人口の減少や担い手不足により地域の活力の低下が懸念されることから、これまで以上に子育て世代の定住化を促し、バランスの取れた人口構成を目指していくことが重要となります。そのため、新たな企業の誘致に積極的に取り組むこと。安定した雇用を確保するとともに、働きながら安心して子どもを産み育てられる環境を充実し、若い世代が希望を持てるまちづくりに努めてください。

3点目、我孫子市には先人たちが残したさまざまな地域資源や豊かな自然があります。これらを継承し活用するとともに、市内外にPRすることで、にぎわいのあるまちづくりに努めてください。

4点目、地球規模の温暖化や環境破壊を防ぎ、美しい地球を次世代につないでいくため、ごみの減量化や再資源化、温室効果ガス削減のための再生可能エネルギーの活用など、環境に配慮した社会を目指したまちづくりに努めてください。

5点目、魅力あるまちづくりを進める上で、シティプロモーションは重要な施策です。またシティプロモーションにおいて大切なことは、市民や事業者と共に取り組み、地元へ愛着を持ってもらうことです。そのことを踏まえ、常に情報の受け手の立場から考え、我孫子市の魅力はどうすれば効果的に伝わるのかを意識したシティプロモーションが重要です。また、どの媒体で情報発信することが効果的・効率的か検討するなど創意工夫に努めてください。

以上です。

（市長に答申を手渡す）

○藤井会長 それでは只今、市長への答申を済ませさせていただきました。

これからはですね。4番目の意見交換というところでございます。

先ほど冒頭で私もお話をさせていただきましたが、やはり皆さん一人ひとりの思いといたったものがこの答申の付帯事項といたったところにかなり意識をもって組み込まれたと思います。ただやはり、個別の内容といたしましては、更にこういったところを一步進めてほしい等のいろんな意見があるかと思っておりますので、今日、市長には一問一答という形も考えてはいたんですが、おそらく委員の皆さん方、いろんな意見が出てくると思うことと、また、少し重複するような内容もあるかなということで、先に委員の皆様方にご意見あるいはご質問等も含めても構いませんので、意見のある方はお手を挙げていただいってお話を伺って、それを取りまとめた上で最後に市長の方にお答えをいただくという形で進めてまいりたいと思っておりますので、ひとつよろしくお願ひいたします。

また、皆様方の質問が終わりましたら、その質問を含めた上で、副会長の林先生の方から全体コメントを頂いた上で、市長のご回答をいただくという形で進めてまいりたいと

思います。よろしくお願ひいたします。

お答えいただくのに、市長の顔が見えてる方がよろしいかと思ひますので、市長には前の席にお移りいただきます。

それでは、皆様方でご意見ある方は、マイクをお持ちいたしますので、手を挙げていただけますでしょうか。

田中委員、お願ひいたします。

- 田中委員 今回、答申ができて本当に良かったと思ひます。ちょっと何かウルツとしました。文章を読んでいて、私が特にここに関わっているのは2-3の高齢者福祉の推進というところで、今後具体的ないろんなことが出てくるかと思ひますけれども、今日は、この日常的に自分が取り組んでいる中で、介護のスタッフの方であるとか、それから介護福祉のことであるとか、そういったことでさまざま感じるがあったので、そのことを市長に聞ひていただきたいと思ひて手を挙げました。よろしくお願ひします。

当たり前前にできていたことが本当にできなくなる経験っていうのは、今回本当に初めてであったんですけど、その中でも介護の業界っていうのは本当にそれを押してでもご利用者さんのために予防対策を踏まえつつ、最初はよくわからなくてももう密着度が酷すぎて、三密なんて考えて、今もそうなんですけど、いつ自分がかかるかわからないっていう中でリスクを背負いながら、ご利用者さんのために自分も高齢者なんですけど介護しているスタッフの方たちが一歩も怯まなかったっていうところ。介護業界、ホントすごいなって、何か自画自賛なんですけど、何かぜひ褒めてもらいたいなって思ひて、一歩も引かない気持ちというか。そうだからこそ私たちが、駆けつけるんだって、私たちがやるんだ私たちがやらなくて誰がやるんだっていうような思いでやってきたかと思ひます。今日は、私が3年半前から認知症のカフェを月に1回約30名以上の方が使われるんですけども、それをずっと開催してきたんですけど、この2月からずっと、一般の住民の方が多しことを踏まえて中止してきたんですね。今現在の状況から言ひますと、10月の再開を目処に、本当に最終的に開催できるための準備っていうところをこの9月にやっているとこなんですけども、何としても「みんなに会いたい」「話がしたい」「自分がすごく何か変になつたんじゃないか。」「やっぱり認知症じゃなかったけど、もしかしたら認知症になつてるかもしれない。だから心配なんだ」っていう相談が電話なりLINEなりで毎月いただひていて、それが我孫子市の行政の方はすごく親切でそれをなんでも相談室につなげたり、高齢者支援課の方につなげて認定調査を受けていただひたり、訪問していただひたりして、その社会と地域住民と行政をつなぐ社会の保障っていうところで、すごくこの認知症のカフェって役割を果たしてるな、自分は何がなんでもこれで辞めてしまおうかなっていう気もあつたけど、これ辞めてはならないことだなって。やっぱり、住民とそれから認知症である本人と、それから家族と専門の方と、また行政の方々が集うところの場所って本当にここしかないなっていうことをこの頃すごく確信を持った一つであるんですね。

10月開催に向けていろいろ準備はしているんですけども、なにしろ費用もないっていうところで準備にいろんなものがかかたりもするんですけど、補助金っていうものが我孫子市にはありますので、そちらを使わせていただきながら、これもほんと感謝しているところなんですね。いちいち報告しなきゃならないし、鬱陶しいなあみたいなのそういうのもあつたんですけど、こうなってみると本当に貴重な金額だなって感謝してます。

あと、今、高齢者の方はなかなかスマホを持ってない方もいたりとか、私たちは会社ではズーム会議とかそういうのをどんどんやっているんですけど、ちょっと会えないけど顔が見える声も聞こえるっていうところで、ちょっと自分の孤独感を癒すところもあるんですけども、どうしてもオンラインミーティングを今後、こういったことが起きて、ちゃんとできるように準備していきなさい。そういったところでの行政のお力っていうか、無料のそういうことを開講していただひていただくとか、何かそういったものを考えて

いただけると、登録人数が100人以上もいますので、毎月手紙とかLINEとか、それからポスティングとかもういろんなことしながら「今月は中止です。残念ですけどまたいつか会いましょう。」みたいなそういう感じで窓から手を振ったりとかして、それで繋いでるんですけど、そこがね。何かできてくると、できない方は、自分はそんなのができないなんてなっちゃうと益々孤立しちゃうと思うので、それをなんとか行政のお力をお借りすることができないかなっていうところで、ぜひそこは一緒にお話させていただきたいなっていうところがあります。

あと、もう一点、PCR検査です。

今、医療的検査っていうのは保健所経由で、だんだん緩和してクリニックの先生が許可したらみたいなそういうのも出てきてはいると思うんですけど、私どもも出張に行くときは医療的じゃなく社会的っていうところで、だいたい3万8000円とか4万以上取るところもあったりして、PCR検査も高く、会社が出してくれてるんですけど、住民の集いとか介護業界の人が集まるとかなったとき、withコロナっていう言葉はあるけど、できればwithコロナじゃなく、絶対にPCR検査をしているから陰性で、ある程度の安全は保証できたっていうふうにしていければいいなっていうふうに思う、PCR検査について、今後の行政としての考え方などをお聞きしたいなっていうふうに思っています。よろしくをお願いします。

○藤井会長 はいありがとうございます。

今回の答申の中の1番目でも、やはり感染症といったところに向き合う。これがやはり市としても非常に大事だと。そこを誰がやるんだ。自分たちがやるんだという強い思い。この辺のところは非常によく伝わってきたなといった印象を私自身は持っております。

それでは他の委員の方の質問等についてもお伺いしたいと思います。

いかがでございましょうか。では上村さんどうぞ。

○上村委員 本日はありがとうございます。我孫子市商工会から来てる上村です。

私は3番の交通軸の形成についてなんですけれども、我孫子市は、確かにここ10年ほどで、手賀沼ふれあいラインの整備が進んで、東西間の移動に関して、やっぱり商売やっていると、非常に速くなってきて便利になったなと実感しておりますし、また、今回はこの県道我孫子利根線と係わってくると思うのですが、また新たな16号バイパスとかいうものもできてくるとですね、東西の移動に関してはかなり便利になってくるかなと。将来的にも期待が持てるんですけども、そうなってくるとどうしてもこの利根川と手賀沼という南北ですね、言ってみれば直線に対しては補助線みたいな形の幹線か生活道路ができてこない、ただの通過するまちになってしまうんじゃないかなってことを非常に危惧しております、便利に他のまちをつなぐ広域の交通軸と、更にまち中をつなぐ生活道路ですね、そういった形の整備が進んでくれると非常に我孫子市にとっては良いことかなと思っておりますので、その辺に関して、市長のご意見をお聞かせいただけたらと思います。

○藤井会長 交通軸のところのラダー構造となるような南北の足、これを作ってほしいということですね。他にいかがでしょうか。

○小田委員 市民活動ネットワークの枠から参加しております。よろしくお願いいたします。

私は市民活動と別に、自分の会社を持っておりまして、17年くらい前にシティアというマンションができた時から、一帯のまちづくりに関わってまいりました。

それから今は、我孫子ショッピングプラザというところで地域連携のイベントなどをコーディネートしております。

そこで、いろんな若い方、新しく移り住んだ方とお話する機会も結構ありまして、この5番にあります「魅力あるまちづくり」を進める上でのシティプロモーションということが書かれておりますが、今の若い方もしくは新しく住まれた方が本当に我孫子は良い街

だ、ここに住んで来てよかったと、10人の方に聞くと10の方がそうおっしゃるんですが、でも、我孫子のことはよくわからない、我孫子のことを知りたいということをごくよく聞かれるんですね。今度、地域で活動してるママを10人ぐらい集めて市民活動ステーションさんにご協力いただき、我孫子ショッピングプラザにもご協力いただいて、民間の手で子育てガイド本、ママがつくる子育てガイドブックというのを作ろうと思って今制作を進めているんですけども、そこに関わっている方でさえ、例えば我孫子に我孫子の子育てのコンシェルジュさんがいらっしゃることもとか、名戸ヶ谷あびこ病院で病児保育をやっていることとかを知らない方がいらっしゃるんですね。そのぐらい、みんなまちのことをよく知らないということ、こんなにいいこといっぱいしてるのに、すごくもったいないなと思っていて。何年か前に秘書広報課に「あびこの魅力発信室」ができたと思いますけども、やっぱりどうやってこれから我孫子のまちの良さを発信していくのかということ、本当に行政だけではなく民間も巻き込んでいただいてもっとこうやれることをみんなで模索していければいいと思いますし、私個人的には千葉県で一番住みたいまちナンバーワンは我孫子にしたいというふうに思っているの、ぜひ、そういうところで民間や市民活動団体と一緒にできることがあったらどンドン声をかけていただいでやっていただければいいなと思っています。

それと、悪口ではないんですけども、この前子育てフェスティバルというのを開催したんですが、秘書広報課さんとか積極的にご協力いただいた部署もありますけども、例えば保育課さんとか子ども支援課さんとか、民間のために何かいろいろなことを協力するっていうことに抵抗があるのか、そんなに一緒にやれるっていうやれる感がなかったんですね。ぜひ、そういうところの壁を外していただいで、官民一体となって我孫子のことを発信していこうということをやっていこうとお考えいただければなというふうに思っています。

○藤井会長 協働の意識であったり、あるいは受け手に対してどういうものを届けるか。

今回の答申の中の5番目のところにも記載していただいている。

そういったところについての更なる民間の活用といったところもひっくるめてのご意見だということでございます。

そのほか、いかがでございましょう。

○佐藤委員 我孫子市総合計画審議会に携わらせていただいで、我孫子市の魅力とかをより一層知ることができました。手賀沼をはじめとした自然豊かなまちとして、子育てのサポートの充実、ごみのリサイクル率は県内トップなど、素晴らしいたくさんの魅力や市民への手厚いサポートなど感じました。

これらを団体さんや事業者さんと連携して、広報、広告やインターネット、SNS、イベントなどを有効的に活用して発信することによって、より一層我孫子市民の方にも知る機会が増え、我孫子の新たな魅力を知り得たりとか、我孫子市民でない方にも、このような動画投稿サイトなどを通して魅力のを発信していただければなと考えております。

また、その動画とかを投稿されているのを知らないという方も多いと思いますので、まち並みの目に付くところや電車の中、駅などの構内に広告などでこのような魅力などやっていますとか動画投稿サイトなどでやっていますというのをお知らせいただければなと考えております。

○藤井会長 ありがとうございます。市民にとって魅力ある我孫子を知ってもらいたい。知らないのは逆に罪だよというぐらいの思いで、それを外にも知ってもらいたいといったところ、それをどうするかといったところで今いろんなツールを使って活用して広げていこうじゃないか。そういったご意見ですね。

その他いかがでございましょうか。

○川合委員 私が市長にお伺いしたいことは、我孫子が選ばれ続けるまちになるために、どのようなことを行っていきたいのか、市長の考えや方針をお聞きしたいということ

す。

実際に、私が今大学4年で、地元の友達と会ったりしていると、就職を機に我孫子を離れるといった友人がかなり大多数いるということで、自分としても少し寂しい思いをしたことがありましたので、ぜひ、そのような就職を機に離れてしまったり、我孫子から出てしまっている人を少しでも減らすために、もしくは外部から我孫子に入っただけのようにしていくために、これから我孫子市はどのようなことを行っていきたいのか市長の独自の考えでもいいですし、我孫子市全体のこれからの将来像とあわせてお聞きしたいなと思っております。

○藤井会長 ありがとうございます。

この審議会でも、我孫子市に移住あるいは定住、交流であるとか関係といった形で人口の捉え方をどうしたらいいかというようなご意見もいろいろ出ていました。そういった中で若い人たちが抜け出てしまう。若い人たちが抜けてしまうとやはり市の全体の将来といったものがちょっと心配になるといったところですので、ぜひ後ほど市長にお伺いしたいと思います。そのほか、いかがでございましょう。

○宮川委員 私が以前、ご質問した手賀沼公園・久寺家線における用地買収の件ですが、市長は正面に立ってやっていただけるというお話だったと思うんですが、その辺の推移をちょっとお聞かせいただければと。

それから我孫子の将来デザインとしていろいろ議論してきているわけですが、この常磐線の沿線を見ますと、例えば、取手の駅前あたりは大規模な開発に取りかかってますね。

かつての空き地で、今、工事が行われてます。それと、柏はご存知の通り、だいぶ発展してきました。かつては我孫子の方が柏よりも常磐線の拠点であるというような印象を昔の人は持っていたようなんですが、なんで我孫子が柏に追い抜かれたかというような感じを持っている方もいらっしゃると思うんですよね。

都市計画審議会あたりでもいろいろ議論されていると思うんですけれども、いわゆる土地の高度利用、特に駅舎を充実していかないと拠点としての魅力が失われるのではないかと。駅を中心とした周辺の土地の高度利用、そのためには容積率のアップとかですね。そういうようなボーナス制度を活用しながら、今後、我孫子市の業務誘致といいますか、就業人口の増加あるいは税収面においては固定資産税といったような方策にも結びつく、そういう都市改造が必要なのかなという感じがしてるんですけれども、その辺は2点目としてお話いただければと思います。

○藤井会長 ありがとうございます。

久寺家線の用地買収の進捗と、それから都市計画といった側面での拠点の整備、更なる土地の発展に向けてといったところのご意見ご質問ということでございます。

そのほか、いかがでございましょう。

○熊田委員 私どもの会社では、世帯主として約十数名の社員の雇用と、それからパート勤務の主婦だったり子育て世代の方も含めると30名近い雇用を地元でしております。実際、今年は我孫子のカップまつりもなかったですし、産業まつりもないという中で、地元の活性化については大きい企業よりも地元の中小企業や商工業が担ってるのかなというふうに非常に感じています。

今コロナが拡大しているという中で、中小企業の事業主もしくはそこで働く人たちにどんなことを伝えたいと思うか来週の朝礼では紹介させてもらいたいなと、励ましの言葉をよろしくお願ひします。

○藤井会長 根っこの問題は全国的に厳しい状態が続いておりますので、我孫子市としてどう向き合うかといったところについて少しご理解いただければと思います。

そのほか、いかがでございましょうか。

○橋本委員 私の父も我孫子市内の中学校出身で、大学を機に我孫子から出て、それで社会人になってしばらくしてからまた我孫子に戻ってきたという形なんですけれども、その

父に聞いたら、私、若松に住んでるんですが、そこの周りに当時の同級生が結構住んでるというのを聞いて、二世三世もこの我孫子に住んでる。一回外に出るけど、結果的に戻ってくるっていうのがなかなか多いんだというのを、私自身も実感しました。結局、我孫子が好きだから戻ってくるっていうのはすごい何かいいし、私自身もうれしいなとは思いますが、この少子高齢化が進んでいく中でなかなかそれだけでは人口が減っていて、どうしても生き残っていくにはそれだけでは少し足りないと思うので、新しく我孫子市にも人に入ってもらうためにどんなことに力を入れていくのかという市長の考えをお聞かせいただいたらうれしいなと思います。

- 藤井会長 住むとといったことに対する魅力すごいよと。でも、外に出て、そこで暮らしながら働くといったこともあるでしょうし、我孫子に戻ってくることもあるかもしれないし。そういった中で、新たな産業、働くという場面だとか、そういうことも含めて新しいことに目を向けた形で人が住まうようになってくるのか。そういったところの方向性についてということでございます。そのほか、いかがでございましょう。

委員の皆様方からは、よろしゅうございますか。

これまでこの総合計画審議会2つの部会に分かれて、皆様方の声を集約するということに努めてまいりました。

そこで副会長の林先生の方から、個人の思いでも結構でございますし、あるいは全体を通じてということでも少しお話をいただければと思います。

- 林副会長

今般、藤井会長さんのリードのもと、皆さんの活発な意見をいただきながら何とかこの将来の姿を示す基本構想を答申することができたという段階で、私にコメントをということなんですけども、藤井会長の横におりまして、置物のようにほとんど発言をせずに、皆さんの話になるほどと思って聞いていたので、最後ぐらいは話せということだと思いますので少しちょっと感じたことあるいは私もちょっと思ってる部分もありますので、その点2点についてお話をさせていただければと思います。

まず、全般的なまとめということでございますけれども、やはり、最初に台風のお話からスタートし、その後コロナがやってきたという中でということになりますと、やはり感染症が怖いということになります。そうなる、どうしてもこの病気の人を隔離する、人に会わないということで、地域の中でどうしても分断という問題が出てきてしまうのではないかとこのように感じてございます。そういった中でですね、この答申の5あるいは将来都市像にもありますけれども、どうやって未来の世代にまちをつないでいくのかという、どうも今日、今回の議論で「つないでいく」というところが一つのキーワードになっているというふうに感じました。

また、単に「つないでいく」といっても、先ほど意見にもあります通り、地域社会を支えるためのつながりをつくっていく、あるいは交通という面でのつながりをつくっていく、更には外部から人を呼び込むためのつながりをつくっていくという「つなぐ」というのがどうもキーワードになっていたのではないかとこのように感じました。

またそういったつながりの中でですね、私自身が今ちょっと感じているところとしては、本学中央学院大学の現代教養学部では、星野市長さんをはじめ青木副市長さんにご登壇いただきまして、地域のことを学ぼうということをして現在進めてございます。そういった中で、学生の感想を聞きますと、我孫子に初めて下宿したけれども、我孫子のことを知らなかったという。先ほどのお話のような形のもので学生からもすごく聞かえるんですね。ところが、市のトップの二方の話を聞くとすごくいいところだと分かった。もう少し、この我孫子のまちを知りたいっていう声が結構あるわけなんです。私もゼミを持ってますんで、我孫子のことを学習しようと、調べるということでかなりいろんな行政資料ですとか歴史の書物こういうのがある。ここからもう少し、学生に一つ一つ歴史や史跡を調べろっていうのも読むんですか、みたいな感じですね、もう少し地元に着目を持っていくという観点から、様々な社会増を増やすために働く人を呼び込むだ

けではなくて、我孫子に現在学ぶ人向きに、何かを情報発信というか教材的なものがないかなと思っています。

それが、ひいてはこの将来像にある未来の世代につないでいく、あるいは地元で愛着を持っていくという、働く人だけではなくて将来働くであろうあるいは働く上でここをベースに住んでいくであろうという人をつくっていくための何か政策が必要になるのではないかというふうに感じました。ちょっと長くなりましたけれども、私の全般的な雑感と申しますか感想とともにですね。もし、こういった方向にシティプロモーションの中に、どうしても外から人を呼ぶだけではなくて、今いるあるいは今そこで学んでいる学生たちに対してどう定着をしていくかという何か教材づくり的なものも必要ではないかというふうに感じてございます。私からは以上になります。

○藤井会長

どうもありがとうございました。全体像という形の中でお話をさせていただきました。

私からは特に多く述べるつもりはございません。

普段からいつもしゃべってるもので、私はしゃべらない方が時間が短く終わるんじゃないかと思うぐらいしゃべってますので、今回はよしとしておきますが、総計審といったところ、今、委員の皆様方にご発言をと言ってお意見をいただいたと思うんですが、大学生の若い3人の方皆さん発言されたんです。これがやはり、この我孫子市の凄いい特徴ですね。他市の審議会は全くありません。そもそも、大学院生や大学生が審議会のメンバーに入ること自体がレアケースです。そういった中では、未来へつなぐといったところがこの計画づくりの中から動いていると。でも、これも簡単にできたものではないとお話を伺うと、市長の下でということ、小中学生の頃から、学習や体験の機会の中で考えるとといったものがある意味出来上がってきた中で、取り組んでみようという思いにつながった。それが、若い学生さんたちにつながってきている。これはですね、我孫子市にとってもいい財産になりますので、今回この総計審一つの形にはなりますけれども、ぜひ、これは市長に続けていただきたいなと思っているところでございますので、それだけ話をさせていただいて私の意見とさせていただきます。

それではいろんな意見が出てまいりました。どの点からでも結構でございますので、市長のお話としてまとめていただければと思います。よろしく願いいたします。

○星野市長

皆さん方には本当に一年強、いろいろな形でお休みを削っていただいたり、メールなどで文書の審査をしていただいたりと、本当に長い間ありがとうございました。

今回は、基本構想の答申ということですから、これから、具体的な基本計画の審議をしていただく中で、もう少し短い期間でのご意見を頂戴することになると思っております。

私自身も、代々、地元の湖北で生まれ育って大学卒業して医局に残った時に2年ほど松戸市民になっていました。再びまた、我孫子に戻ってきて地元で開業するという状況になりました。地元に戻ってくると昔の同級生たちがいるものですから、そうすると居心地がいい。

ただ、女房に言わせると、全く知らない街に来るもんだから、やっぱりそれぞれ違うものがあるなというのは感じています。

最終的に住みやすいと感じてくれれば良いと思っています。結婚した後でも、夫婦で比較したときにどっちに住もうかという決断がされるんだろうなと思っています。

うちの職員も、元々地元で就職したけれど、結婚して他の町に住んでしまっているのですが、それはやっぱり、夫婦の中でどちらが住みやすいかを選ぶんだろうと。

ただ、私自身もこの東葛地区が非常に良い環境であって、その中で仕事をする場所として住む場所、例えば、仕事は柏だけど住むところは我孫子だとか、その逆もあるかもしれない。そういう選択してもらえようような地域にしていきながら、我孫子の良さを打ち出せば良いと。あれもこれも手を付けていろんな町と競争し合うようなことよりも、我孫子というのはこういうまちであと、この指とまれと、我孫子に住むことを選択して

もらえるようなことをしていくことが良いのかなとは感じています。

お話をさせてもらいながら、皆さんからいただいたご意見に1つずつ感じたことをお話しさせていただきます。

今回、コロナの影響で、いろんな方々がいろんなことを心配することが増えたんだと思います。

当然、新型コロナウイルスですから、医療関係者もパターンがわからなくて、あれやこれやと試行錯誤がたくさんあった。だからこそ、あちらこちらで不安が大きく広がっていた。

しかし、今の状況からすると、そんなに恐れなくていいんじゃないかなと。今、指定感染症に指定されていますけれども、感染症の分類だと2類という位置づけは、新型コロナウイルスのウイルス自体が、いわゆるSARSのバージョンという位置づけなので、SARSや結核と同じ2類扱い、いわゆる感染したら隔離をしていくという基本的な扱いの中で2類扱いしていた。

通常のインフルエンザや季節性のインフルエンザに比べると、コロナで亡くなっている人はだいたい1000人です。毎年インフルエンザで亡くなる人は2000人から3000人、爆発的に感染する時は1万人を超える中で、この新型コロナが2類扱いでいいのだろうかという議論も出始めている。今の状況からすると、いわゆる重傷者や死者数の数を見ていくと5類でもいいのでは、季節性インフルエンザと同じ扱いでもいいんじゃないかという議論が出始めている。あくまでも、今のSARSの病態がこういうふうになっているんだというのがわかってきているからで、その状況の中であっても、PCR検査の検査体制も民間の検査機関に出してもいいよということになってきていることから、だいぶ体制も強化されてきている。我孫子でも、4つの病院で検査を毎日のようにやっている。検査体制でも当初からずっと我孫子市内では体制があったんだけど、当然、量的に限度がある。当然、不安があるから、いろんな方々がコロナの検査を希望する。しかし、医療現場は通常の検査や診療をしながらプラスアルファの対応をしているわけですから、コロナだけに対応してしまうと、ほかの大事な検査を後回しにしていいいのかという状況になるので、当然、平等に扱いながら重症者が出た場合には重症者を死亡させないための優先順位が必要になってくる。

そして、このPCR検査の感度はそんなに高くない。テレビに出ている人で、一番高いと言っている人は70パーセント、医療現場では50から60パーセント、PCR検査だけで最終的な確定診断というのは間違った考えだと思っています。

その中で、医療現場も介護も障害もいろんな施設の人たちが、しっかりと頑張っているから、普通だったらクラスターが出やすい場所なのに、我孫子ではクラスターが出ていないというのは本当にありがたい限りだなと思っています。

先ほど、ご意見にあたPCR検査への支援ですけれども、7月までの売り上げが20から50%減少した事業者には10万円、そしてまた家賃も最大30万までという形で支援させていただきましたけど、今9月議会に上程して、8月から12月も、更にまだ20から50%の減少が続いている場合には、改めてもう一度10万円支給する議案を上程していますので、議会終了後にお知らせをさせていただきます。これは、全業種を対象にしていますので、ぜひ、お知らせをさせていただきます。また改めて、申請をしていただければ、1度もらっていても支給させていただきます。

県でも、まだこれからですけれども、30パーセントぐらいまで下げて提案しようか、もう一度支給あるいは期間延長するのが検討しているようですので、また情報が入りましたらお知らせをさせていただこうと思っています。

やはり、今、入院・通所・入所している人たちをどうやって支え続けるかということ踏まえると、継続して医療・介護が行われるということを大切にしていかなければいけないので、この辺については、また、情報提供させていただきますので、手続きをしていただければと思います。

PCや携帯についても、医師会の方も今回のコロナが新しいパターンなので、いくら医療関係者が感染症に対応を取ったとしても、移る可能性は当然高いという状況の中では、二の足を踏んでいましたけれども、少しずつ少しずつ病態がわかってくると、積極的に参加してくれる方々が増えてきます。特に、所得補償がない中でPCR検査センターを立ち上げてくれという県の要望については結構二の足を踏んでいました。万が一自分が感染してしまうと、2週間病院を閉めると所得補償がない状況ではという形で、医師会も、自らがいわゆる保険をかけて万が一自分があるいは自分のところのスタッフがPCR検査に携わったがために感染をしてしまった時の補償が受けられる形をとって協力体制を作ってくれて、少しずつ検査体制も強化されるという状況になってきました。素人としても、万が一クラスターが出た、例えば、学校、保育園、幼稚園、介護施設あるいは障害者施設で出た場合には、行政検査の対象にならない、いわゆる保健所が濃厚接触者と判断しなかった、だけど、同じ部屋にいた患者さん、あるいは子供たち、あるいは学校の先生、保育園の先生たちにも、我孫子市独自に補助する体制をとろうと検討しています。予算は、9月議会に出しているんですけども、万が一議会可決前にそういう状況が起きた場合は、予備費で対応しようということにしていますので、万が一そういう状況が各施設であった場合には、すぐ相談してくださいと。医師会と調整しながら、対応していく予定にしています。

私も、今回こういう状況になってみると、例えば、国や県の機関とオンラインという形で、初めて会議をやってみました。やってみるとなかなか面白いものだなと。オンライン会議だと、不正にアクセスされてしまうと本音を語ろうとしたときに、もしかしたら流れてしまうと元もこもなくしてしまうという欠点もあるので、腹を割って話すということはちょっとやりづらいなというのを実感しました。ただ、公でも構わないものと、本当に腹を割って話す物、私は、いつも国にお金をもらいに行くときは、うちはお金がない、私が頭下げてもらえるものだったらもらってくるというスタンスでずっとやっていましたけど、やっぱり、そこは本音を話しながら、うちには個人住民税がベースで、法人市民税がほとんどない、たばこ税と法人市民税がほぼ同じくらいのまちだったという話をしながら、何とか皆さんが国に支払っている税金を、少しでも我孫子市のために使えるよう意識でいくのです。なんとかやりくりをしていくためには、国や県の事業を市に持つてくることによって、道路事業だったり、あるいは堤防強化といろんなものに使うために補助金などを我孫子市に持つてくるのが私の仕事だなというふうに思ってやってきました。そういう状況の中で、コロナの話になってくると、あちらこちらで保健所という話が出てきます。保健所というのは、県の所管ですけども、私の認識としては、学生の頃、保健所法の下で教わったのは、人口10万あたり1か所作らなくちゃいけないんだけど、実際に、人口10万人に対して1か所になっていないという現実からすると、それを当時は、学説上違法行為だと教わってきたんですけども、各市に保健センターを作って、法律を変えて保健所から地域保健法に変えて、各保健所が機能を担っていた検診業務や予防接種を各保健センターに権限移譲してきた。ただ、感染症だけは相変わらず保健所が担っていく、保健所というのは県の施設だというよりも、我々からすると厚労省の出先機関だからこそ、国家試験、医師免許、歯科医師免許を含めて、直接保健所から支給する。手続き関係は、特に保健所はずっと担ったままになっています。その中で、例えば、習志野市長がずいぶん苦労したみたいですけど、隣の中核市の船橋市と政令指定都市の千葉市保健所が持てる。だけど、我孫子や習志野のような一般市は保健所が持てない。だけど、習志野には習志野保健所があっても独自策はできない。市民の感覚としては、まちの中にある保健所だから、市の職員の感覚が強いんですよ。しかし、保健所を持つとうとするには、中核市以上にならなければいけない。今動き出しているのは、松戸と市川で、中核市になって保健所が持てるようになるろうと。そうするとまた、我孫子は松戸の保健所管轄だから、松戸に行くんだらうと。この前浦安市長が来て、市川の保健所が独立してしまうと、同じ管轄内にあるので、どうしようかと。今の法律が変わらない限りは、

我孫子も浦安も保健所が持てない。各市の市長と話をしても、やっぱり一番欲しいのは、政令市になった場合にできること、県と同格になりますから、都市計画決定ができる。先ほど挙げたように、うちのまちは、ここはこういうふうには高度利用をしたいんだと言っても、今の我孫子のように一般市では、県と調整をして、県の許可がないとないと何もできない。自分のまちだけで単独で決定ができないというのが、一般市のつらさなんです。当然、予算もつけられない。だけど、合併をして政令指定都市になれば、都市計画決定が自分で決められる。

保健所が持てる、児童相談所が持てる、そして教育委員会が持てる。一番つらいのは教育。学校の施設は、市立の場合、市長が絶対そこを整備をしなくてははいけないけれど、働いている教員は県の職員なんです。最後には、我々は県の職員ですからと言われてしまうと、もうそれ以上何もできないという、非常につらいところがある。それが、政令指定都市になれば私の部下になるというメリットがある。例えば、政令指定都市になったとしても、我孫子区として成立をしてきますから、合併をした後のまち外れという認識はかなりなくなります。中核市になってしまうと、都市計画決定もできないし、お金だけ使うのに、権限が中途半端に降りてくるという状況になると、今回のコロナ、あるいは都市計画決定については自分たちで決めて実行できないという、かなり大きなハードルがあるということを皆さん知っておいていただくと、これから先のまちづくり、日本人全体の人口が減っていくときに我孫子のまちをどうしていこうかという参考になるかなと思います。

現実的に、1年間で人口が約50万人減る、この近隣でも毎年、人口が減少しているという状況の中で、これから先、人口を増やそうということは、他のまちの人口を取ってくるということになる。そうすると、どこかの地域はどこかのまちは、予想以上に人口減少が加速するということになるんだということになる。柏のTX沿いは、昔、何もなかったところに電車が通ったために、宅地開発が行われた。電車が通らなければ何にもいじられなかったところでした。当然、電車が通ったことによって、交通軸いわゆる道路などは、大きな価値になってきます。ただ、電車や道路が通ると、線路などで南北を分断する要素にはなりますが、その周辺の開発ができるようになる。例えば、仮称千葉・柏道路をこれから進めていこうとすると、当然、その周辺にインターチェンジができれば、その周辺の開発が国や県と合わせながらやれると、チャンスになると思っています。仮称千葉・柏道路が、約10年ぶりに協議が再開されて、国の方では、第2湾岸と同じレベルの位置づけに上がってきているようです。16号の渋滞の解消のためのバイパスというイメージではなくなるようです。物流関係も東葛地域にずいぶん増えていく中で、東葛地区に通して、物流やいろいろな企業が活動しやすい交通ネットワークをつくらうと、野田から我孫子を通して印西の464にぶつける、まず、ここを1期工事と位置づけましょうと。そうすると、成田空港へのアクセスがしやすくなる。外環あるいは県道と交通アクセスがしやすくなるという位置づけで、自動車専用道路として作っていこうという予定になっています。当然どこかにはインターチェンジを作らざるを得ない。我孫子にもインターチェンジも1か所できれば、印西方面からもアクセスしやすくなり、利根川の堤防沿いを通して、堤防沿いにある2車線の県道が4車線の自動車専用道となってくれば、それだけ利根川の堤防の強化につながっていきますから、我孫子市として、メリットにつながるよう、個々の計画に合わせながら前に進めていく必要があるだろうなど。それが、今我孫子がなかなかできない土地利用や都市計画決定に大きく影響してくるだろうと思っています。ただ、かなり大規模な工事になると思いますので、早くても15年はかかるかなと。これから、きちんと我孫子市としてのメリットを訴え続けなければ、素通りされてしまうだけになってしまうので、きちんと発言をしていく必要があると思っています。

南北の交通軸の話がありましたが、356バイパスも完成しました。国道6号線から我孫子の手賀沼公園久寺家線を通して、ふれあいラインにつながって356バイパスまで結ぶ

と、1つの南北を結ぶ交通軸となります。手賀沼公園久寺家線は、10月下旬もしくは11月上旬から工事が始まります。下水道管の切廻し工事から始めて、年明けくらいから本格的な道路工事に入っていきますので、周辺にお住まいの方には、そろそろ工事のお知らせが入るかなと思っています。やっと工事に入りますのでご報告させていただきます。

もう1本の南北を結ぶ交通軸としては、6号から出てNECの前を通る道路があります。

あそこから湖北台の団地に向かっていって、保健センターの前を通って若草幼稚園のところぶつかります。そのため、若草幼稚園が移転をしていただきます。移転をしていただくことによって、まっすぐ道路を通して、南側に曲がって356バイパスに接続するための都市計画道路の整備を進めています。まずは、若草幼稚園が移転してもらって、湖北地区の消防署を跡地に移転します。今は分署という形で、消防車と救急車を1台ずつ置いている状態で、2台一緒にドアが開けられないような狭い状況となっています。今、1年間の出動件数が6500件くらいになっています。今後、8000件になるまでに、もう1隊、救急隊を増やそうという予定にしています。やはり、高齢者が増えてくると、救急車での搬送件数はどんどん増えます。4000件のときに6000件を目標に救急車を増やして、今いる消防署には、救急車が常に2台体制とプラス予備の救急車、ここには3台常にいるという状況です。市全体では、4つの消防署で5台の救急隊で対応しているので、これを、4つの消防署で6台の救急隊を持っていく予定で進めようとしています。やはり高齢者、特に8月は、コロナで搬送される方より、熱中症で受診する方が圧倒的に増えていますので、コロナだけを心配するわけにはいかないという状況でした。

次に、情報発信の話をしていただきます。

最初の頃は多くの方から言われて、いろいろとやってみたんですけど、職員はやっぱ公務員であって情報発信のプロではないなと。ご存じの方もいると思いますが、今、我孫子の魅力発信室は外部の人に課長職で来てもらって、情報発信をしてもらっています。5年ごとに公募して、今、2期目です。一応、国の方から、交付金をつけていただいているんですけど、国の補助は、だいたい3年しかつけてくれなくて、4年目にはだいたいゼロになる。新しいことをやっていかないと、国の補助がもらえないという状況になっていますので、常に同じことをやるのではなく、新しいことをしていかなければいけない。先ほど提案があったように、いろんな方にお手伝いしてもらおう。一緒にやっていくということを大切にすることがあるなと思っています。我孫子のいいところあったら、川村学園や中央学院の写真部の方に協力していただいて、写真を撮ったらSNSなどでアップしていたんですけども、ご意見を聞いていると、スポット写真だけではなく、動画も含めて、もっと多くの人に協力してもらおうといいなと思いつつ、お話を聞かせていただきました。動画になると、何分くらいで編集した方がいいのかということもあろうかと思えます。私の家では、YouTubeで見るのが5分以内だったら見るけど、10分20分と時間がないときは、あまり見ない。そういうところも含めて、うちの40代50代の職員が考えるより、若い人のアドバイスをもらって一緒にやってもらえるとよいが、若い職員が、常に市内を回っていけるわけではありませんので、いろんなところで撮影してもらった写真や動画を活用させてもらうのが一番いいなと思いつつ聞かせてもらいました。特に、大学生には協力してもらいたいなと。若い人から見ると、どういうところが魅力あるように見えるのか、ずっと地元にいるとあまり感じない。だから、よそのまちに1回行って戻ってみると、こんな意図があったんだと。日本の治安の良さだとか、日本の医療水準の高さは、外国へ行ってみると非常によくわかるということと同じで、我孫子にずっと住んでいると我孫子の良さは日常のことになって、あまり気づかない。だからこそ、外に住んでいる人にいろんなことを指摘されると、これはそんなに魅力があったんだと、わかることがある。今、我孫子で待機児童ゼロ堅持を30年以上続けています。待機児童ゼロだからこそ、我孫子では予約保育ができるんです。妊娠中に、自分が出産後に仕事に復帰したいから、保育園を予約ができるという制度です。マスコミと新聞社と話したら、それはすごいことだよ。うちは、ずっとやれていたんで、あんまり気にしないでいたら、

新聞記者は、もっと PR したほうがよいと。しかし、入園希望者が大量にきてしまうと、待機児童が出てしまうので、ある程度の予測値を持ちながら、保育園を作ったり、あるいは子どもたちが減ってきている幼稚園に保育を担ってもらおう。保育園を建て続けると、いずれはもっと子どもたちが減ったときに、保育園の倒産ということが起きてしまうので、なるべくこれ以上は保育園をつくらずに、幼稚園に保育園を担ってもらおう。幼稚園の空き教室を活用して認定こども園にしてもらい、幼稚園と保育園としての定員を明確保してもらおう。例えば、保育園には親御さんの労働時間の制限がありますから、今まではお母さんが週4日働いていたんだけど、勤め先が営業不振だから、あるいは他の常勤の人を雇ったからあなたはちょっと週なん日にしてくれと言われてしまうと、保育園が出ざるをえなくなってしまう。しかし、認定こども園であれば、保育園に所属していた子どもさんが、幼稚園に所属することで、同じ園で同じ先生の下でクラスが変わるだけで、そのまま園に居続けることができるということで、幼稚園側からしても子どもが減ってきて教室が開いてくる、経営難になるのであれば、面倒ではあるが手続きをしてくれることによって、保育園と幼稚園を一緒に運営できる。そして、子どもたちも親御さんの仕事が変わるだけの理由で園を変える必要がなくなる。その逆もあって、幼稚園に入れていたんだけど、お給料増やそうと思って仕事に行くことにすると、幼稚園を辞めて保育園に預けざるを得ない。

これまでも、我孫子では、幼稚園に補助金を出して、延長の預かり保育をすべての幼稚園でやってもらっていました。そういう政策についても、あまり知られていないので、PRし続けられるといいのかなと思っています。先ほどお話ししたように、あまりPRしてしまうと、入園希望者がどっときてしまうので、注意をしながらPRをしていければと思っています。

一番難しいのは、我孫子は常磐線が開通して、東京から約1時間ちょっと。志賀直哉や武者小路実篤、嘉納治五郎師範も我孫子に別荘を構えて平日の疲れを我孫子で癒していた。だからこそ、我孫子では嘉納治五郎先生は柔道家としてではなく、教育者として伝わっているのです。第一小学校が近かったから、小学校に入るといろいろと協力してもらって、東京高等師範の先生として伝わっていて、柔道家として伝わっていない現実があります。嘉納治五郎が行ったことによって、いろいろな方々が我孫子にそんなに別荘地があるのかと、水辺と自然、緑がある住環境として選択をして、たくさんの人たちがきました。村川親子もそうでしたし、いろんな大学関係者も我孫子に別荘を構えていたということを踏まえると、これからも我孫子は基本的には東京のベッドタウンとなっていくんだろうなと。我孫子に住んでいる方の半分以上が、東京にお勤めです。近場を職場として選択している方もいることから、柏や松戸など東葛エリアの良さというのはこれからも守り続ける必要があるんだろうなと思っています。本来であれば、1つのまちの中で完結しようとする、商業地、工業地、住宅地があって、労働者の人口が確保されて、その労働者が消費者になるというように完結できるのが一番いいんでしょうけど、残念ながら我孫子は商業系と工業系は非常に弱い。東葛地区に見ると、それがすべて揃っているという現状の中では、今後、1つ考え方の整理が必要な時代がくる可能性はあると思っています。ご存知のように、我孫子は旧我孫子町と湖北村と布佐町が昭和30年に合併して以降は、合併をしていません。東西に細長くて、北に利根川、南に手賀沼に挟まれていて、これは行政としては、非常に厳しいものを感じます。高齢者が増えて人口が減っていく、毎年1300人ぐらいが亡くなって、生まれる子どもは800人以下。毎年マイナス500人、転入増ではあるが、毎年、300人ぐらい増にならないと、毎年200人ずつ人口が減少していく。この人口減少をどうやって止められるか。さっき話に出たように、1回は大学進学あるいは就職で我孫子を出る方々はいらっしゃいます。逆に、大学入学あるいは就職で、我孫子を含めた東葛地区にくる人もいます。その中で、東葛地区から東京に、あるいはその周辺で勤めようという人たちに、その周辺に住むなら我孫子を選んでもらえるような政策転換が必要なのかと。そこにターゲットを絞るとしたら、子育てをしようとい

う女性でしょう。この女性に選択をしてもらわなければ、してもらえようなまちを目指していかなければ、我孫子の将来は厳しいかなと思っています。うちの職員の例をみても、奥さんが住むところを決めています。我孫子で生まれ育った女性は、我孫子に呼び込んでくれる。我孫子で生まれ育った男性職員は、奥さんの家の近くに住んでしまう。残念ながら、そういう状況が現実としてあります。となると、我孫子の小中学校を卒業した彼女たちのような人たちが、常に住みやすいと感じてもらえようなまちを目指していく。子育て支援というのは、10年経てば古い政策になる可能性が高いですから、私は市長に就任してから子ども部を作りました。当然、子ども部には、子育て政策を中心に考えてもらっていますが、5年ごとに見直して、その事業は継続したほうがいいのか、それではなく、違う方向に変えたほうがいいのかというのを、常に考えてもらっています。福祉部は、高齢者や障害者を中心とした事業を行っています。保健センターは、国から決められた検診業務や予防接種業務をやっていますが、日本全体としてはワクチン行政がすごく遅れていますから、しっかりと新しいもの、どれを選択するか、他市がそうやっているからではなくて、我孫子市民はどういう病気にかかりやすいか地域特性をきちんと見なければいけないと思っています。我孫子で一番必要とされる予防接種に市の補助を受けやすい形をとっていくというのを考える必要がある。福祉部門は、ちょこちょこ施策を変える必要がない分野だと思っています。高齢者を支えていくための政策が、5年ごとにはころころ変わるわけではなく、障害者の皆さんに対する施策も同様で、法改正や国・県の動向に合わせながら、より良いものに変えていく必要があると思っています。その辺を踏まえながら、今まで苦勞をかけてきた高齢者・障害者の皆さんを支える政策と、これからまちを維持していくための子育て政策。切り分けながら、ターゲットを絞りながら対応していきたい。それが人口増とは言わなくても、現実的な人口を維持していける政策展開を中心に今考えていきます。

市の職員も、40代50代はいっぱい考えて子育てをしている。30前後の女性職員の意見を最大限尊重しながら取り組みをしていきたいが、いかんせん、最終決定は採択をする時にお金が必要になってくるので、どれほど負担できるかというのが最終決定になってきます。そのためには、国や県の制度をしっかりとチェックをして、どこにどうお金が回るのか、そしてそれを取っていきながら活用する。国や県からのお金があれば、その分、市の税金を違う事業に活用できるわけですから、国や県の動きをしっかりとチェックしていくというのが大事だと思っています。

中小企業への支援は、先ほど言ったように、市の今9月議会と県の9月議会で同じように全事業所を対象とした支援策を上程していますので、可決し次第、お知らせさせていただきます。中小企業が倒産してしまうと、そこに働いている人たちが無職になってしまいますから、我孫子市民を無職にするというわけにはいかない。雇用を守っていくためにも、企業をつぶさない。きちんと守っていくしかないと思っています。さまざまな形で事業者の団体を作っていると思いますけれども、いろんな政策について相談があったら、国の補助金等も活用しながら支援し続けていければなと思っていますところ。

いただいた意見は、これで全部かと思えます。どうもありがとうございました。

○藤井会長

各委員の質問に対しまして丁寧にお答えいただいたといったところで、私自身、この我孫子市の中で都市計画審議会の会長も務めさせていただいておりまして、そちらの方では我孫子市どうしようかといったところを常に議論をしていく場になるんですけども、今、市長のお話の中に、市一人勝ちするような政策ではないんだと、やはり東葛地域の中で個別の持っている都市の魅力といったものの中で、どうやって協調しながら自治体としての位置づけを明確化していくか、それに当たっては、従来の都市計画といったところでは、暮らす・働く・憩う・通うといった4つの機能が都市計画の中に非常に大事だと、「暮らす」と「憩う」に関して我孫子はもうトップクラスだよと。私も以前、卒業研究を通じてということで、千葉県内外から周辺の茨城・埼玉を含めた地域愛着度調査

というのをやったことがございまして、その時には、我孫子市の市民アンケート調査を全部データ分析すると、偏差値 70 を超えていて、東大入れるんですよね。それぐらい、地域愛着度が高い。その愛着度が高いのに、なぜそれが定住といったところにつながってこないのだろうか。やはり、人口減少の打開に繋がる、働くという部門が少し弱いよねと。ただそれは、ないものねだりするのではなくて、やはり地域の中の位置づけとして、あるいは働くといった空間をどうやってつくり上げていくか。そういうことから、今できるのではないかと、今、市長のお話の中で競争するんじゃなくてといったようなキーワードが 1 つあった。やはり、我孫子市として戦いを挑んでいくのではなく、この地域の中でどういう分担で担い合う都市政策を考えるのかといったことが、非常に大事なんだろうなと。そういったときには、この総合計画といったところで、私は船橋市民でありますので我孫子市で細かい具体的な施策展開がどうなっているか十分知らなかったのですが、今横にいて、市長のお話を伺っていく中で、フィンランドとかスウェーデン、北欧ではネウボラという考え方があって、ひとりに寄り添った形で、子育てを出産から成長するまで担うよ、それをきちんと補助制度を含めた中で更新していくよという、これを日本のいろんなところで見習うような政策を展開できているのですが、それが具体的な事業としてなかなか結びついていない。我孫子でそんなネウボラという考え方が出る前に、そういったことが動いていたんだということに初めて気がついたようなところで、そういった面では、今までやられていたことを情報発信する、魅力と、情報発信しすぎてしまって、容量を超えてしまう心配とのバランスがまた難しいんだろうなと。そういった面では、これから皆様方に具体的な基本計画という形で検討していただくことになってまいりますので、その時に我孫子市ってこんなところの特徴がありそうだよねというところを再認識していただいた上で、どのような民間活力を生かした形で情報発信といったところにつないでいくか、「つなぎ」といったところを「つなぐ」といった一歩踏み込んだ考え方がこの総計審の基本方針の中に打ち立てられていますので、ぜひ皆様方にいろんな情報提供といったものをいただきながら、この総計審からいろんなことが発信できるような形をとっていきたいと思いますので、ご協力いただければありがたいと思います。

それでは、市長にお話いただいたことにも、またさらに上乘せで聞いてみたいという声があるかもしれないのですが、本日の予定もございまして、もしもそういったものがございましたら、事務局の方に投げかけていただくという形をとらせていただきたいと思います。

本日はどうもありがとうございました。

それでは、議事の進行を更に進めてまいりたいと思いますが、事務局から、今後の答申を受けた後の進め方について、ご説明いただければと思います。

○事務局

次第では、5 番の今後の進め方についてとなりますが、本日、ご提案したいことと、皆さんからご意見をいただきたい案件があります。

まず会長の方からお話があったように、これから具体的な基本計画という部分に入っております。その際に、今日のご意見でもありましたけれども、あの事業の進捗はどうなっているんだろうとか、今後どういう政策を展開していくのだろうかとか、そういう疑問の中で、もし皆様からこんなところが見てみたい、こんなことが知りたいということがございましたら、皆さんと一緒に施設見学の方を検討してもいいかなと。お時間の都合がつかなければ、個別に事務局の方にご意見いただいて、事業担当の職員も別におりますので、その者も含めてご説明をさせていただく機会を設けさせていただければというふうに考えているのですが、この場では、なかなかご意見言いづらいということであれば、メール等で事務局の方にお知らせしていただければと思います。ぜひ、皆さんの疑問と一緒に解決しながら、次の基本計画に進めたいというふうに思っておりますので、ご意見をいただければと思います。また、本日、答申をいただきましたので、これかから、

市民の皆様のご意見を聞くというパブリックコメントを実施させていただきます。市の一番の骨格となる計画ですので、市民の皆様から沢山意見が出るものだと思っております。その意見については、本来であれば、会議の場で皆さんに見ていただいて、ご意見をいただければと思うのですが、皆様、お忙しいということもございますので、事務局からメールと郵便で皆様を送らせていただいて、意見があったらまたお返しいただく、修正があった場合については、事務局の方で会長・副会長にご確認をさせていただきながら修正し、皆様に提示させていただくという作業をさせていただきたいと思うのですが、そうは言っても皆様の方で、お集まりいただいて審議したいということであれば、改めて時間を設定したいと思っておりますので、以上、2点について、皆様からご意見がありましたらお願いしたいと思います。

○藤井会長

はいありがとうございます。それではまず1点目でございますが、先ほどのご意見の中にもあったんですが、我孫子の良さということをなかなか知らないよねと、市民自体も知らないよねと言ったところございました。委員の皆様が全部ご存じかどうかということは私も存じ上げないし、私自身も我孫子を知らないといった部分もありますので、今進んでいること、あるいは特に中心的に問題ある点、こういったようなところも含めてですね、事務局の方で委員の皆様にある意味、知っていただく機会を設けたいということでございます。中には、個別に行っていただいてもいいし、あるいは丸一日、ある程度、事務局に負担はかけてしまいますが、設定していただいて、主な施設を巡るような形を企画してみたらいかがかなといったところのご意見でございますが、これは全員が参加すべきということではございません。そういった機会を設けさせていただきたいなというところでございますが、いかがでしょうか。私は特段反対することもないかなという思いは持っておるんですが、事務局の方にある程度の草案的な形で、おそらくは日にち固定で皆さんのご都合が合えばぜひご参加をとという投げかけになってしまうかもしれません。ただし、それに合わない場合には個別対応をしていただくというようなことも含めてご案内をさせていただきたいと思っておりますが、よろしゅうございますか。

はい、それでは、事務局長また一つ負担が増えると思っておりますが、よろしくお願いたします。

それでは2点目でございます。

パブリックコメントに関しては、この答申の内容が大きく変わるような事態、こういったようなことがあれば、当然、皆様方にご参集していただいてご議論いただくこととなりますが、誤字の修正、あるいはこれまでは皆様方からご議論いただき、議事録の中で委員の皆様方の意見や方向性を確認した上で、この修正で大丈夫だろうといったようなところについては、事務局と会長・副会長の方で判断できるのであれば、その修正を済ませていただいて、それを皆様方にご確認いただくというアプローチをとりたいなと思っておりますが、その点に関してはそのような事務局からの提案でよろしゅうございますでしょうか。

(異議なし)

それでは、そういった参集していただくような事態を招かないと思っておりますが、その場合にはまた改めて事務局よりご案内させていただきますのでよろしくお願いたします。

事務局より、今後の進め方について2点ございました。いずれもお認めいただきましたので、委員の皆様方から、何か全体を通してご意見ございましたら承ります。

○椎名委員

先ほど市長から詳しく説明していただきまして、私も今まで知らないようなこともいろいろ知りました。本当にありがとうございます。また、私が感じたことですが、市長さんが先頭に立っていつもPRしているんですけれども、いつも市長さんは箱根駅伝に応援に行っていて、実は私も応援に行っています。中央学院大学が長年にわたって常連校として箱根駅伝に出場し、テレビに「我孫子」という名前が出てきます。私が感

じたことは、最近、市川市というところに行きましたところ、行徳が神輿のまちなんです
が、まちの道路の横断幕に「神輿のまち行徳」という文字がいつも掲げられてるんです
ね。我孫子も国道6号に文人墨客のまちという横断幕を季節の良い時期、例えば桜の咲
く時期とかに掲げられれば、国道を通った方が我孫子に寄ってみようかなとか、そうい
う気になるかなと、そう感じたわけでありまして。そして、我孫子の歴史を知りたいと思
うんですけど、昭和40年代に出た「故郷我孫子」という冊子があるんです。それから「我
孫子の史跡」というこの二種類の冊子があります。片方は我孫子市で出しています。片方
は個人の出版であります。これが復刻できれば、また多くの皆さんが見て、我孫子を知る
のではないかと。古い歴史があります。こういう人がいたというようなことも出ていま
した。これは、大和朝廷の頃の話です。その後、平安時代、平将門の乱が起きました。
我孫子にも平将門の史跡がたくさんあります。その時に関東では、関西から関東に名前
が移っているんですね。これが平将門が写したのかは定かではないんですけども、関
西にも我孫子があります。ちょうど京都から南に入ったところに我孫子があります。あ
と、いろんなこの関東の茨城にしてもこの下総にしても、河内とかそういうところが関
西とそっくりの名前がたくさんあるんですね。戦国時代にいた我孫子五郎左衛門の居城
址があるんですね。我孫子城として、そこにいたということも掲げて書いてあります。そ
の後、近代になって文人墨客のまち我孫子になりましたね。ですから、こういう本があれば、よく知ることが
できるのではないかと思いますし、これもいろんな魅力があると思
います。感じたことは以上でございます。

○藤井会長

どうもありがとうございます。我孫子市の持っている魅力が戻れば、歴史的なところ
からして情報発信していこうじゃないかと、そういったところですね。ご紹介いただき
ました市川の行徳ですね。私は市川市の総合計画に関わってはいるんですが、その中
で一つたわわているのが、その地域の文化の発信、それから維持といったようなキー
ワードがあります。地域興しといったところで地域の文化をどうやってつなぐのか、その
文化の発信の仕方としていろんなことをやってみようじゃないかということが計画の中
に盛り込まれていて、それが一つ具体的な形となって表れたといったところで、我孫子
もどうやってそれを見せていくのか、常に情報発信だけではなく、改めて知ること
、これも一つの見方です。

今、いろんな我孫子の特徴をご紹介いただきましたので、こういったようなことを事
務局の中でも学べる・知る機会を委員の皆さんと共有できるといいなというふうに思
います。

その他いかがでございましょう。

○山下委員

市長さんのお話ですけども、本当に多岐にわたり、すらすらと力強くさすがです。いつ
もどんな時でも、市政のことを考えておられるんだなということを実感いたしました。
それから、総合計画審議会です。基本構想とかこれからの基本計画もそうですけど、こ
ういったことを議論することはすごく楽しいことで、割とワクワクしながらきています。
この我孫子市の総合計画審議会も、分科会形式など、まさにそういう雰囲気の中で進め
ていただいたと思います。また、会長・副会長さんがみんなの意見を一つ一つ丁寧に取り
上げて、大事にしていくという姿勢がすごく感じられました。本当に素晴らしい会議だ
ったと思います。今後、この構想を受けて計画案づくりをしていくと思うのですけれど
も、私も行政の人間なので、その作業が実際本当に大変だっていうことは承知していま
す。特に今はコロナの関係で、社会経済情勢に大きな変化が生じていまして、私どもの地
域振興事務所の事業も、いろんな事業が中止になってしまったり延期になってしまっ
ているような状況です。コロナが、今後いつ終息するか見えない中で、これからの計画とか
それにぶら下げる事業を考えていくわけなんですけども、基本に立ち返って固定観念に
とらわれず、前例踏襲でないような形でやらざるを得ないのではないかと考えていると

ころです。いろいろご苦勞と思いますが、引き続き頑張っていたきたいなど。以上、感想です。ありがとうございました。

○藤井会長

お褒めの言葉を頂いたということで、学生は褒めて育てなきゃと常に思ってるんですが、私は褒められると調子に乗ってしまいますので、そういった場面では少し行き過ぎだよと言ったときには、お叱りいただいても結構かなというふうに思っておりますので、引き続き、よろしく願いいたします。

よろしゅうございますか。答申、一つの区切りを終えたということで写真撮影という形に進みたいと思います。写真撮影にあたりまして前面の方で皆様方に入ってくださいなので、事務局の方に準備していただきますので準備でき次第、写真を撮りますのでよろしく願いいたします。

(写真撮影)

○藤井会長

それでは写真撮影、ご協力いただきましてありがとうございました。

それでは全体を通して、事務局の方で何か追加連絡ございますでしょうか。お願いいたします。

○事務局

以上をもちまして、答申というひとつの成果、本日終えることができました。また、新しい検討がこれからスタートいたしますので、引き続き、皆さんよろしく願いいたします。では、本日第7回目の総合計画審議会、これによって閉会したいと思います。どうもありがとうございました。